

知 識 探 訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

戦争の記憶とマレーシア

渡辺洋介 (シンガポール国立大学博士課程修了)

日本では 12 月 8 日は日米開戦の日と記憶され、一般には真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まったと理解されている。しかし、これは米国中心の見方にすぎない。日本は英国、オランダとも開戦しており、当時英国領であったマレー半島のコタバル(現クランタン州)に真珠湾攻撃の約 1 時間前に上陸している。太平洋戦争は真珠湾ではなくマレーシアで始まったのだ。

残念ながら、この事実はマレーシアでも広く知られてはいないようだが、そもそも、太平洋戦争がマレーシアではなく真珠湾で始まったという話が広まったのは、それが米国の方針だったからだ。日本を占領していた連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ) は、1945 年 12 月 8 日から「太平洋戦争史 真実なき軍国日本の崩壊」という GHQ 作成の文書を新聞各社に掲載させた。この文書は、米軍の役割を強調するため、中国や東南アジアではなく太平洋を主戦場として戦争を描いている。多くの日本人の戦争認識はこの時期に GHQ 主導で作られたのだ。この頃から「太平洋戦争は日米戦争であり、その戦争は真珠湾で始まった」という片手落ちかつ不正確な認識が広まったといえる。

このように権力者には、自分たちにとって都合のいい歴史のみを取り上げて広めようとする傾向がある。マレーシアもその例外ではない。現在のマレーシアの歴史教科書(マレー語版)は、日本占領期をマレー人ナショナリズムの揺籃期として描いており、その例として、マレー人ナショナリストで戦時中は日本軍と協力したイブラヒム・ヤーコブと、激しく日本軍に抵抗して「マレー人魂」を示したとされるマレー連隊司令官アドナン・サイディを大きく取り上げている。一方で、日本軍による華僑虐殺にはほとんど触れていない。マレーシアの教科書が日本占領期をやや「好意的」に描くのは、それがマレーシアで政治権力を握るマレー人の見方を反映しているからであると同時に、日本からの投資をマレーシアの経済発展に結びつけたいというマハティール政権以来の思惑があるからだ。

しかし、マレーシア全体がこうした「好意的」な見方をしているわけではない。日本軍はマレー半島を占領する際、主にマレー人を官僚や警察に雇って占領統治の一翼を担わせ、インド人は日本が創設したインド

国民軍に編入し、インド東部にある英軍の拠点・インパールまで攻め込ませ、日本の戦争に協力させた。他方で敵国国民である中国人(華僑を含む) 英国人、オーストラリア人、オランダ人とユーラシアン(欧亜混血)は厳しく弾圧し、特に反日的と嫌疑をかけられた華僑に対しては、女性や子どもも含め、集落ごと焼き払って皆殺しにしたりした。マレー半島を占領した日本軍の幹部には中国から転戦してきた者が多く、中国大陸で行ってきた残虐行為と同じことをマレーシアでも行ったのだ。



マレーシア独立のために犠牲となった兵士の記念碑トウグ・ヌガラ(クアラランプール)

残念ながら、こうした事実に対してマレー人は一般に無知あるいは無関心である。その背景には、上述のように、華僑虐殺の事実が若い世代のマレー人に十分に伝えられていないことがある。他方でマレーシアの華人社会は若い世代に戦争を伝えようと努

めている。戦争を起こした日本人としては、マレー人の「好意的」な見方や無関心に安住せず、侵略の歴史から真摯に学び、戦争で被害を受けた華人の感情にも理解を示すべきであろう。

< 著書紹介 >

1970 年生まれ、東京都出身。シンガポール国立大学博士課程(日本学研究科)修了。専門は、アジアにおける戦争の記憶と歴史認識。日中韓三国共通の歴史教材作りや高嶋伸欣琉球大学名誉教授が主催する「東南アジアに戦争の傷痕を訪ねる旅」の運営にも携わっている。主な著書に『旅行ガイドにないアジアを歩く シンガポール』(梨の木舎、2016 年)ほか。